

ボランティアスキルアップ講習 宿根草を使って花壇をつくろう！

2025年2月21日（金）、2月28日（金）

会場：日比谷公園 緑と水のカレッジ 講習室、
代々木公園 東京パークガーデンアワード
コンテスト花壇

講師

GreenPlace 高橋 三和子先生

第1回東京パークガーデンアワード@代々木公園グランプリ受賞者



公園の特性を活かした宿根草花壇づくりを実践型で学びました！

東京都公園協会では、都立公園・庭園・霊園・水辺でボランティア活動を行っている皆さまを対象に、活動に必要な知識や技術を学ぶ機会として、定期的に「スキルアップ講習」を開催しています。

今回は、毎年好評をいただいている「宿根草を使って花壇をつくろう！」のレポートです。講師は、第1回東京パークガーデンアワードのグランプリ受賞者である高橋三和子さん。コンテスト花壇での3年の花壇づくりを振り返りながら、実践的に教えていただきました。

東京パークガーデンアワードとは？

1日目は座学です。まずは、自己紹介を兼ねて「東京パークガーデンアワード」についてご紹介いただきました。宿根草等を活用した「持続可能なロングライフ・ローメンテナンス」をテーマとしたガーデンコンテストで、短期間のディスプレイではなく、約1年かけて、デザイン、メンテナンス技術を審査するコンテストです。高橋先生が参加したコンテストの様子を、施工から1年間のガーデンの移り変わりまで、じっくりとご紹介いただきました。



2023年6月頃のコンテスト花壇
(高橋先生提供)

公園花壇に宿根草を植える際のポイント

公園に宿根草を取り入れる際には、公園という場所の特性を踏まえる必要があります。①公共の場であること。訪れるすべての人に楽しんでもらうためには安全性が最優先。毒があるもの、樹液がかぶれるものや棘や堅くとした葉にも注意。コンテスト花壇の近くにこども園があり、高橋先生も子どもの利用を想像しながら慎重に種類を選んだそうです。②鑑賞性。周囲の景観との調和が大切。③耐久性。環境にあった丈夫な種類を選ぶことがロングライフ、ローメンテナンスにつながり、ひいてはローコストにもつながる！④生物多様性。たくさんの生き物たちの住処になる工夫をすること。蜜源となる花を植えるのはもちろん、バグホテルのよう



バグハウス

に人工的に住処をつくることもおすすめ。その他、公園におすすめの植物などもおしえていただき、参加者のみなさんは、終始熱心にメモを取られていました。

コンテスト花壇でお手入れ実践！

2日目は、コンテスト花壇でのお手入れ実習。まずは、スプリングカットバック。枯れ姿で鑑賞していた植物を切り戻しました。切り戻す位置などを教えてもらいながら進めました。



スプリングカットバック

その後は大きくなったイトススキ、マウンテンミントの株分け。株を掘り上げ、その後の生長するサイズを想像しながら、必要なサイズに戻していきます。驚いたのはマウンテンミント！昨年も株分けしたにもかかわらず、近くに植えた球根が見えなくなるほど、広がっていました。公園花壇にとって、丈夫な植物は心強いけれども、生長をどこまで許容するのかをあらかじめみんなで決めておくことも大事とのこと。実習ならではの学びです。

実習の時間は2時間半と短い時間でしたが、みんなで協力して、この日の予定をすべてこなすことができました！お疲れ様でした！



マウンテンミントの掘り上げ



掘り上げたマウンテンミント